

はじめに

若い人の将来なりたい仕事の上位に医者がかかるそうです。なぜ医者になりたいのかを聞くと経済的に安定しているからという人が多いらしいです。しかし「病気で困っている人を助ける」のが医者への使命なのに経済的な理由で医者になりたいというのは間違つてはいないでしょうか？ 本人は望んでいないのに親が勧めて医学部を受験する人もいるそうです。

1990年以降日本は不景気のトンネルから抜け出せなくなりました。1955年から1972年まで高度経済成長を続けてきた日本ですが、1992年以降は経済成長率がほぼ横ばいです。

バブル景気が1986年12月から1991年2月まで続きました。この時期は株価が急上昇し、土地の値段も上がり、個人資産も上がったため社会全体がそれまでなかった好景気を実感した時期でした。

不景気の現在では想像が付きませんが、1970年代には日本の経済は豊かになり、日本人の大部分が自分たちを「中流階級」だと意識する時代がありました。この時期は日本の黄金期で、エズラ・F・ヴォーゲルさんの書かれた『ジャパン・アズ・ナンバーワン』がベストセラーになりました。

しかし、1990年景気の過熱を避けるために「総量規制」が実施されました。「総量規制」とは銀行

による不動産向け融資を抑制・規制したものです。

1990年以降の日本の不景気の原因は複雑な要因が絡んでいますが、1989年12月にアメリカ合衆国のブッシュ大統領（父）とソビエト連邦のゴルバチョフ大統領が、地中海のマルタ島での「マルタ会談」で「冷戦の終結」をしたのがその一因といわれています。それは、アメリカ合衆国がソビエト連邦の防衛線としていた橋頭堡（前進拠点）としての日本の価値があまりなくなつたと判断したためとされています。それ以外の現在の日本の不景気の原因は、少子高齢化によって働く人が減つたこともあると考えられています。

このような不景気な時代になると、若い人たちは安定した仕事を求めるようになります。最近の医学部人気は、経済的な安定を求める受験生が増えたことにも原因があるのかもしれませんが。

医者の仕事にはまず「病気で困っている人を助きたい」という奉仕の精神が重要なのは言うまでもありませんが、それ以上に大切なのは医学などの勉強、医者としての技術の向上を高めようとする継続的な努力です。

本書では医学部とはどのようなところか、どのような人に適性があるのかを、私の経験を通してわか

りやすく説明させていただきます。

なお、人の名前は原則として仮名にさせていただきます。



バラ